

三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発－Ⅴ

カワハギ養殖の好適な環境条件の把握

宮崎優太

目的

三重県における新しい養殖魚種として、カワハギが期待されている。県内漁場の水温の変動を調査し、カワハギ養殖漁場としての適性を検討する。

方法

三重県の熊野灘沿岸の主要魚類養殖漁場5か所（南伊勢町迫間浦，方座浦，大紀町錦，紀北町引本浦，尾鷲市三木浦）で水温の測定を行った。測定地点を図1に示す。深さ2mの地点に水温ロガー（onset社製，HOBO Pendant Temperature Data Logger）を固定したロープを養殖業者の筏に設置し，5~6ヶ月おきに交換した。回収したロガーからデータをダウンロードし，解析に供した。測定間隔は2時間に1回記録するように設定した。

結果及び考察

令和2年6月~令和4年10月までの水温測定結果（水深2m）を図2に示す。ロガーの測定不良や紛失のため，迫間浦（令和2年12月7日~令和3年1月11日），錦（令和2年9月1日~令和3年3月25日），引本（令和2年7月13日~11月16日），三木浦（令和2年6月19日~7月2日）のデータが得られなかった。令和2年の夏季には迫間浦と方座浦で30℃を超過したが，先行研究では，30℃程度の環境でも生理的な影響によるへい死は頻発しないことが知られている（水野，2014）。得られたデータについて，いずれの年度，地点でも，へい死リスクが生じる10℃以下の水温帯になることは無く，成長に適しているとされる20~25℃の水温帯が5月~7月，11月~12月頃に維持される傾向がみられた。養殖試験が実施され，出荷サイズの300g以上にまで育成できた尾鷲湾と同様の傾向であったことから（図3），いずれの地点でもカワハギ養殖が可能な環境が維持されていたと考えられた。

これらのことから，いずれの地点・時期・年度もカワハギ養殖が可能な環境が形成されており，生理的な要因でへい死が生じるリスクは低かったものと考えられた。

引用文献

水野かおり，三浦智恵美，三浦猛（2014）カワハギおよびウマヅラハギの成長と水温の関係 水産増殖（62），23-30

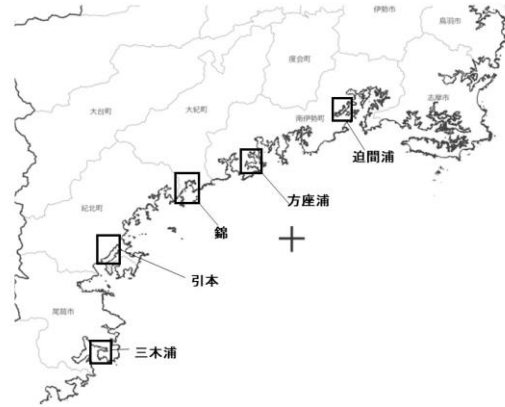


図1. 測定地点

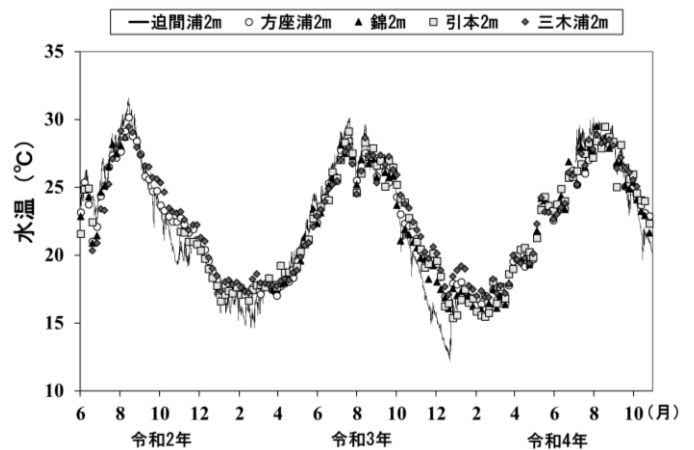


図2. 令和2年~令和4年における各地点の水温推移



図3. 尾鷲湾で行われたカワハギ養殖試験における平均体重と水温の推移